

カモシカの保護と対応



カモシカをみかけたら...

1. 近づかない
2. 逃げ道をふさがない
3. 立ち去る・見守る・おどろかせない



町内各地でカモシカの見撃情報が数多く寄せられています。体長が1メートルを越すカモシカを見かけたら驚かれると思いますが、比較のおとなしい性格で、基本的に人を襲うことはありません。多くの場合、人を見かけると遠ざかっていきます。

自然豊かな高畠に住む特別天然記念物カモシカの保護にご理解とご協力をお願いします。

カモシカが元気な場合：静かに見守ってください

- ・人に危害を加えることはほとんどありません。帰巢本能があるので、山に帰る道がわかれば帰っていきます。しばらく様子を見守ってください。
- ・犬にほえられると興奮するので、近づけないようにしてください。
- ・原則、保護（捕獲）できませんが、家屋に入り込んだり、交通安全上の問題がある場合や自力で山に戻ることができないような場合は保護（捕獲）も試みますので、社会教育課へ連絡してください。

カモシカがケガや病気で動けなくなっている場合： 社会教育課（52-4472）へ連絡してください

- ・家屋に入り込んだり、交通の妨げになっているなどの場合をのぞいて、動かしたり触れたりせずに、速やかに社会教育課へ連絡してください。
- ・個人で保護をしないでください。
- ・民間の鳥獣病院などには、持ち込まないでください。



カモシカが死亡している場合：

社会教育課（52-4472）へ連絡してください

- ・検死などの手続きを行いますので、できる限り動かさずに、速やかに社会教育課へ連絡してください。

子どものカモシカの場合：静かに見守ってください

- ・見つけた人が、親と離れて迷子になったと思い、保護することがありますが、たいていは親が近くにおり、人の接近により警戒して姿を見せないものと考えられます。
- ・場合によっては、親が威嚇してくる場合もあります。危険なので近づかないでください。
- ・幼獣を一度保護してしまうと野生復帰が困難になることもあります。幼獣を発見しても触れずに立ち去ってください。すでに保護した場合、早急に保護地点付近で放獣してください。

カモシカの特徴

- ・名前にシカがつきますが、ニホンカモシカはウシ科に属する日本固有の草食哺乳類です。戦後の乱獲で数が減って、1955（昭和 30）年に国の特別天然記念物に指定されました。
- ・オス、メスともに後ろ向きに伸びた2本の角をもち、体毛は黒や灰色、うす茶色が多いです。また、体の大きさや角にほとんど違いがないため性別を見分けるのが困難です。
- ・成獣の頭胴長は 120cm 前後、体高は 80cm 前後、体重は 30 ～ 40kg になります。
- ・基本的に単独で行動します。朝夕に採食して、座り込んだり長時間立ち止まって休憩しながら反芻はんすうしていることが多いです。近づいても動じないことがありますが、衰弱しているわけではありません。
- ・成獣は眼の下に分泌腺をもち、分泌物を枝や葉にこすりつけて縄張りの認識をしています。定着性が強く、同じ場所で同じ個体をよくみかけます。4～6月に子どもを産み、子どもは翌年の春まで母親と行動をともにします。3歳ほどで成熟します。最高齢の記録は、飼育下で推定 33 歳のように（富山県 2024 『ニホンカモシカ保護の手引き』より）。

